

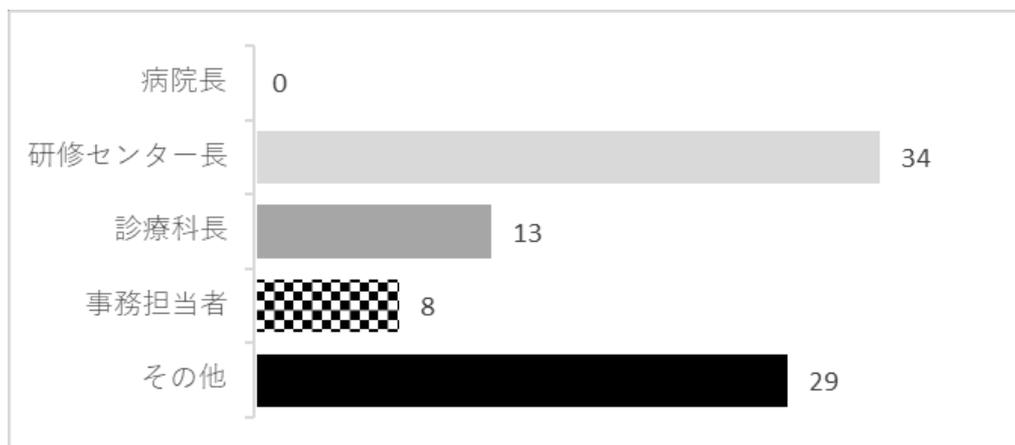
## 2022 年度 卒業生の学修成果に関する調査

本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対しアンケートを実施しました。  
個別調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2023 年 2 月 15 日～4 月 30 日
2021 年度就職者数	99 名
対象者数	92 名（本調査に同意した者）
有効回答数	76 名（回答率 82.6%）

### 1 回答者について

（複数回答可）

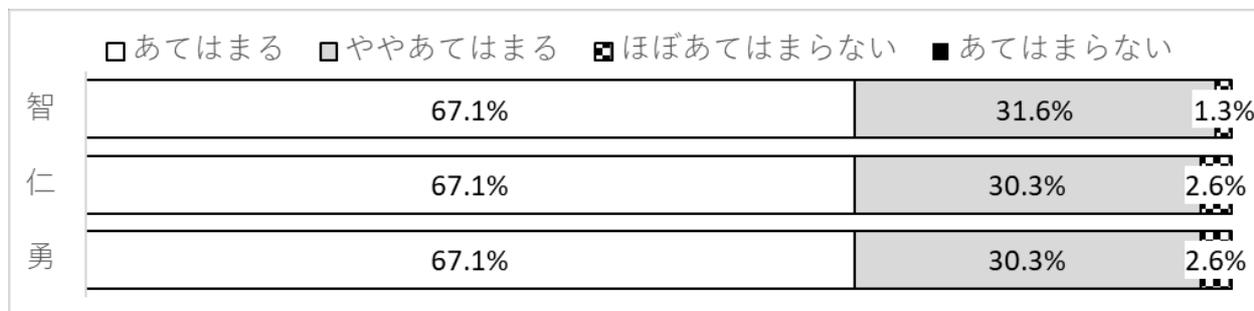


その他：准教授、講師、医局長、病院講師、研修センター教員、プログラム責任者、研修委員会委員、診療科指導医、初期研修担当者など

## 2 卒業生の学修成果について

### 2.1 本学の理念

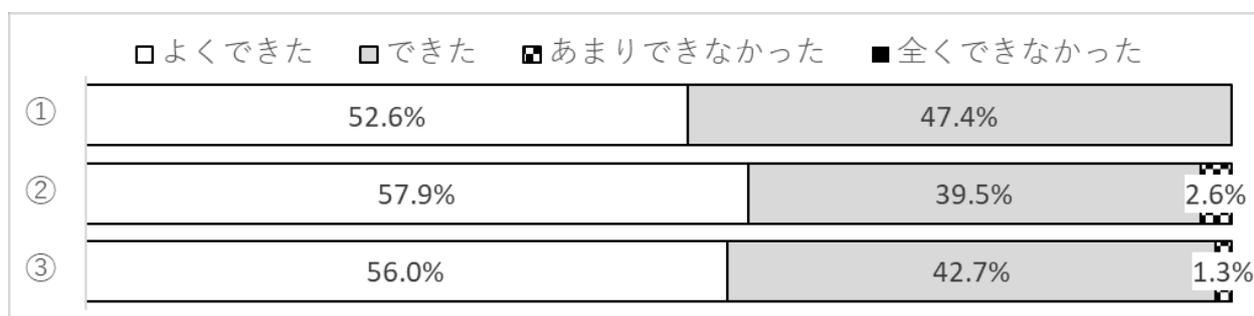
- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を实践する決断力を習得している



### 2.2 本学の卒業時コンピテンス・コンピテンシー

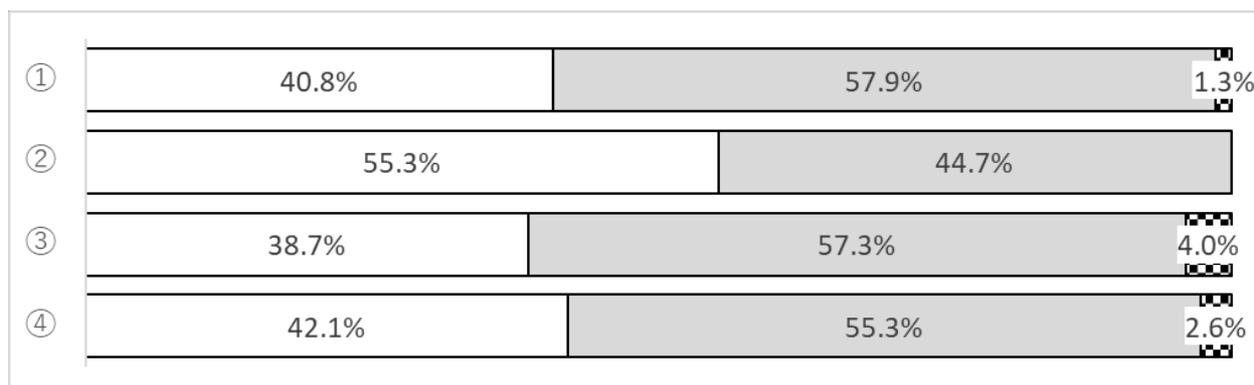
#### 【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



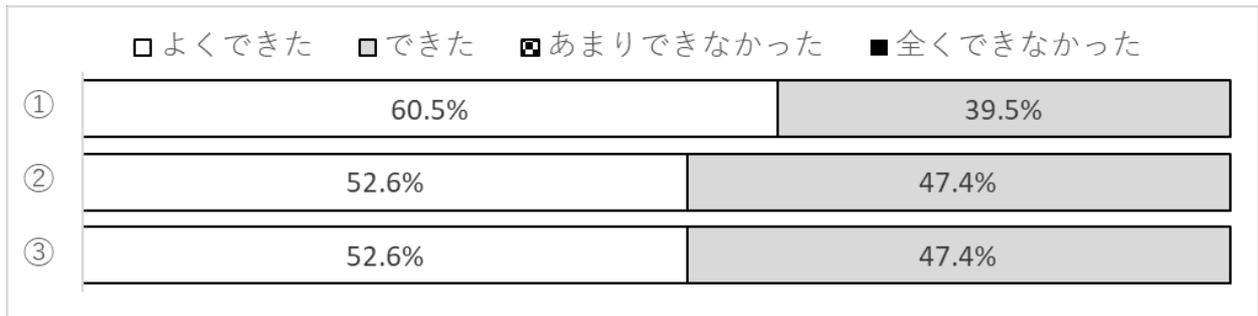
#### 【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



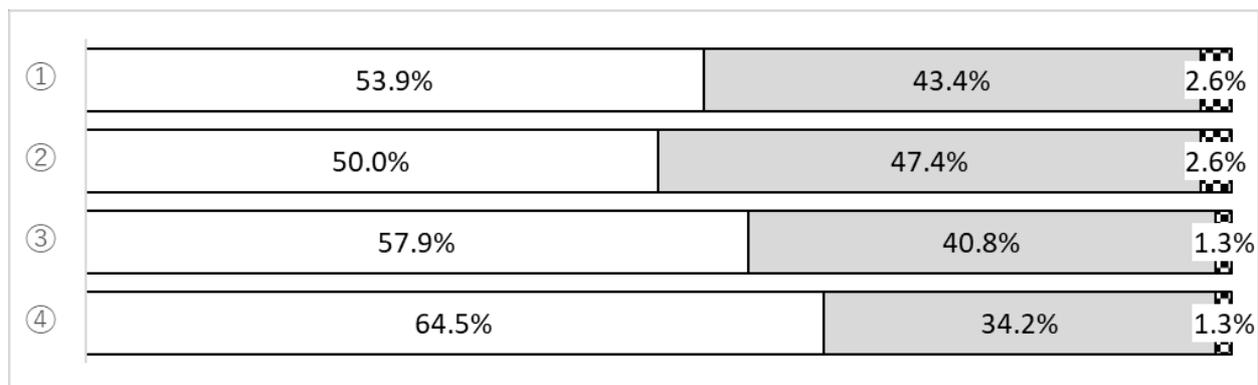
**【診療技能と患者ケア】**

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



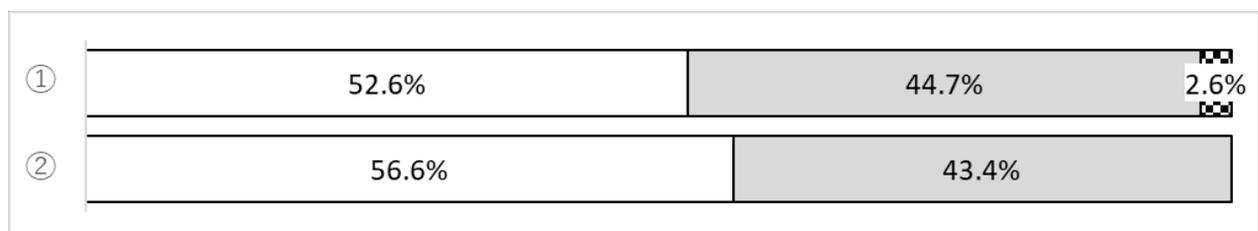
**【コミュニケーション能力】**

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



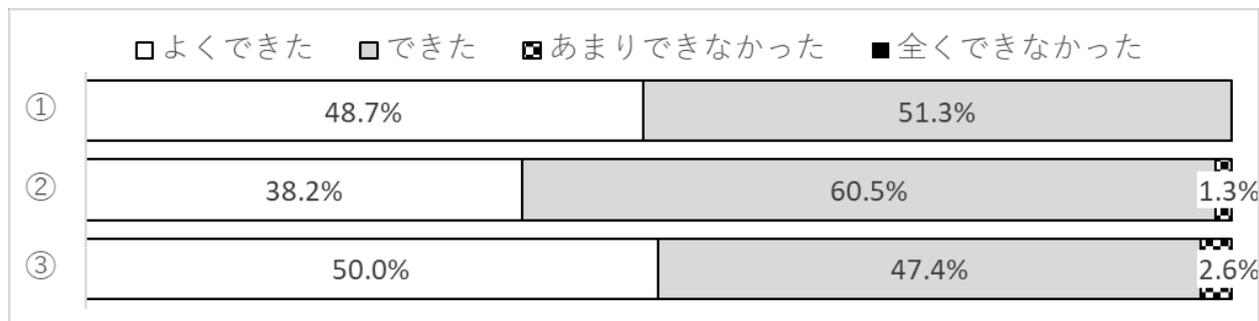
**【チーム医療の実践】**

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



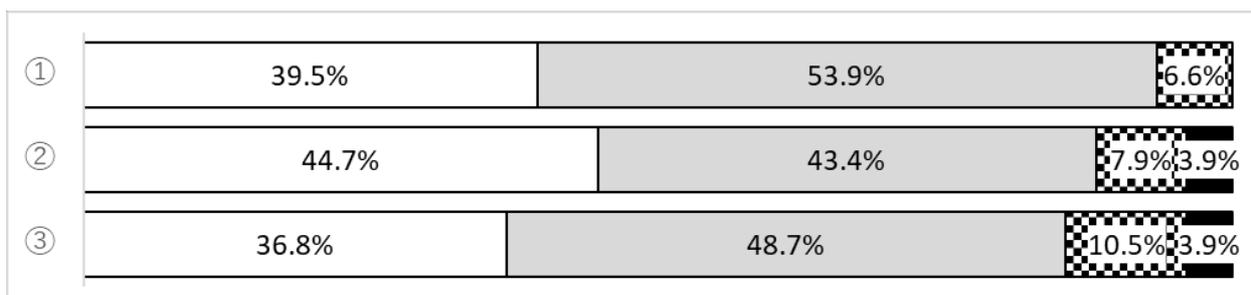
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

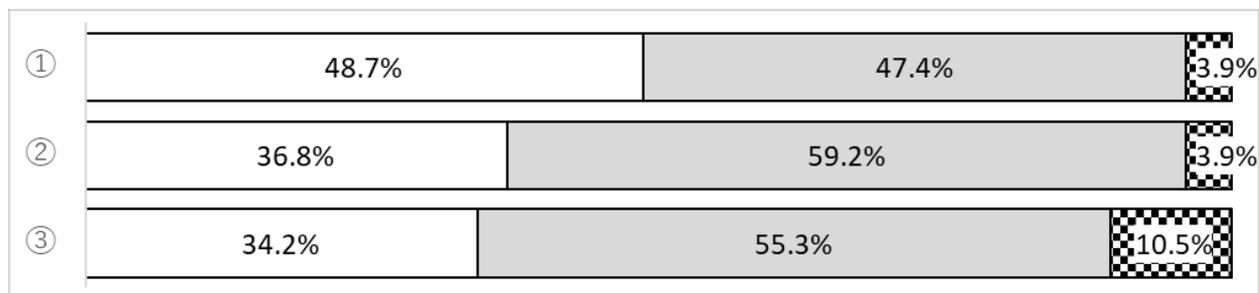
- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



※②、③について、「あまりできなかった」「全くできなかった」と回答のあった 11 レコードのうち、5 レコードは大阪府外の施設でした。

【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



### 【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



### 2.3 総合評価



### 2.4 ご意見

- ・大変よく頑張って研修していました。
- ・勉強熱心で、とてもまじめに診療に携わっておられました。
- ・これから専攻する小児科の初期研修に、楽しく打ち込んでいた。
- ・研修医間の時間調整をして、発熱外来の応援体制を築いてくれた。
- ・研修期間中、一步一步確実に成長してきたと思います。今後の成長が楽しみです。
- ・知識の探究真意に優れており、情報処理も迅速である。今後、臨床医として大いに成長が期待できる。
- ・医学的スキル、知識の習得に自主的に取り組んでいました。また、患者への対応も丁寧に行えていました。
- ・外科系志望とのことで、緊急手術などにも積極的に入ってくれております。引き続き頑張ってください。
- ・必要な事項に関しては、しっかりできていたと思います。主体性を持って行動できればさらに成長できると思います。
- ・積極的に臨床に関わる姿勢を指導医も評価していました。モチベーションが高くこうした研修医が今後も来て下さることを期待しています。
- ・研修医評価票や病歴要約などを着実に完成させ、安心して初期研修の進捗状況を見守ることが出来た。麻酔科を専攻することとなり、適切な進路を選択したものと考えている。
- ・どの診療科においても個人だけではなくスタッフ全体を俯瞰しながら業務を安全にできるよう判断し、指導医らへの相談も迅速にできており、臨床では高く評価されていました。
- ・耳鼻科に進まれるとのことで、頭頸部の緊急手術や処置にも積極的に入ってくれ、とても頑張ってくれています。もう残り期間、すこしプレゼンなど機会を取り入れていきたいと思っています。
- ・循環器内科ご希望とのことで、ECUでの緊急処置や循環評価などに積極的に入ってくれているのを拝見します。ぜひこのまま頑張ってください。プレゼンの機会は2ヶ月目から頑張ってもらいます。
- ・年月を経るにつれ、責任感が増していくことが観察していて強く感じられました。2年次には、1年次に役割を振り分け、自身が管理される場面も見受けられました。色々な責任を与え

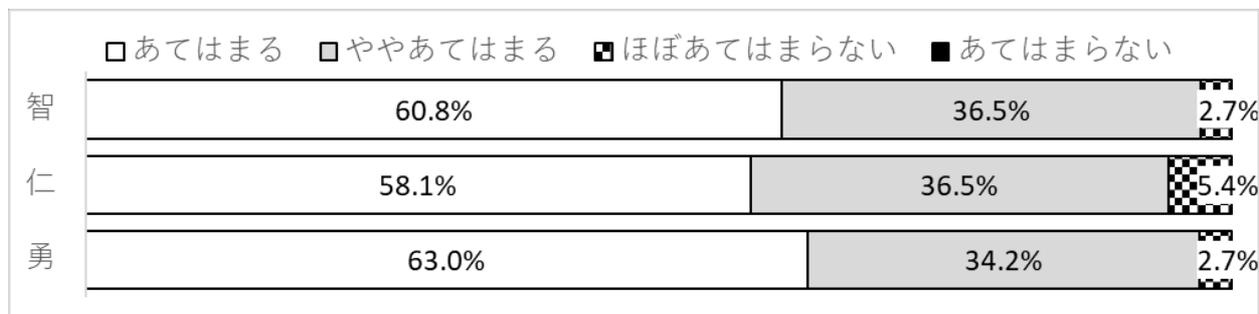
ることで大きく成長することが期待できそうですが、業務量が多いと自学をサボる傾向にあるかもしれません。

- ・ 向上心があり、積極的に学ぼうとする姿勢があり、2年間で大きく成長されています。後進の育成にも熱心に携わっており、後輩からも尊敬される医師です。チームワークや患者とのコミュニケーション能力も十分であり、非常に優秀であると思います。貴大学の優れたご指導のお陰だと思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- ・ 提出物の提出が大幅に遅れた。
- ・ 病棟師長から「患者さんとのコミュニケーションにもう少し積極性があれば良い」との評価をもらった。
- ・ 医学的知識には優れているが、個々の患者に対して個々の患者背景も考慮し、最適な選択を出来るようになればさらに成長できると思います。

### 3 本学卒業生全体の印象について

#### 3.1 本学の理念

- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



#### 3.2 本学の大学教育についてよいと思うこと

- ・真面目な医師が多い(2)
- ・熱心に研修される方が多い印象があります(2)
- ・大変、よく勉強されていると思います。
- ・基本的な臨床能力はトレーニングされている。
- ・患者さんに寄り添い、熱心で優しい医師が多いと思います
- ・院内メールの返事を返す習慣を身に付けている研修医がいる。
- ・指導医・上級医とのコミュニケーションは上手にとっている。
- ・基本的な医学的知識と技能に加えて、報告、連絡、相談やメールのやり取りなど社会人として基本的な部分がしっかりとできていました。
- ・医学に関しては、マイナー科も含めバランスよく学ぶことができる。
- ・例外はあるが、概して研修のコンセプトと、目標を理解し、とりくんでいる。
- ・モチベーション高く意欲的な研修医が貴大学から来られており大変うれしく思います。
- ・これまでで貴学出身の研修医は二人目でしたが、優秀かつ、良い社会人として振る舞ってくれたことに感謝しています。
- ・国家試験を合格するだけの学力は当然ですが、向学心が高い方が多くいらっしゃるが大変素晴らしいと感じております。
- ・熱心かつチーム医療にも高いパフォーマンスを発揮する研修医に育っており、臨床への高い熱意を持った学生へ教育されうれしく思います。
- ・丁寧なフォローアップ体制
- ・向上心を持った、社会への貢献を常に意識している学生の教育に優れていると思います。
- ・Teaching is learning の重要性認識の機会が多い 臨床現場を早くから知る機会が多い 領域をまたいだ教育
- ・卒前・卒後のプログラムに多職種がよくかかわっているところが素晴らしいです。20年前にこのプログラムがあれば小生自身ももっといい研修を送れていたと思います。
- ・基本的な臨床能力を身につけるために、知識や臨床経験、シミュレーションや臨床での技能を身につけている。良好なコミュニケーション能力を持ち、安全な医療を心がけている。地域貢

献や医療の発展のために、自ら学ぶ姿勢がある。

- ・ 学生時代から地域のクリニックでの研修を取り入れていること。各科指導体制が確立していること。白衣授与式で医師に向かって自覚を持たせていること。基礎配で、動物実験や学会発表まで経験させることもあること。シミュレーターが豊富であること。
- ・ 学生に関しては早期から医師としての教育を受けている体験や病院への登院を促しており、医学部生としての自己認識を高める仕組みとなっており、良いかと思います。 研修医に関しては、みな学習しようと頑張っておられますが、高い理想を伝えると、もっと診断学的な観点から臨床推論を学ぶ機会があればいいのにとと思います。また、自分が主治医になったつもりで能動的な患者管理を行なって行って欲しいと思います。
- ・ 卒後教育にスムーズに移行できる卒前卒後教育のシームレス化が実践できているところが優れている。
- ・ 首藤教授が中心になり、全学で教育に取り組んでおられること。
- ・ 総合医学教育学の先生方が中心になってオーガナイズして下さっているのも、一貫した方針の教育内容になっていると思う。
- ・ 大学卒業生全体について評価する機会がない

### 3.3 本学の大学教育について改善すべきと思うこと

- ・ これからも人間性、プロフェッショナリズムに満ちた学生選考をお願いします
- ・ うちわでまとまる傾向がある。
- ・ 時に「余計なお世話」的な介入
- ・ たまに、精神的に弱い医師がいます。
- ・ 日常英会話ができるように教育すべきと思う。
- ・ 学習に関する積極性についても踏み込んだ指導をお願いします。
- ・ 実習や研修の参加に差し当たり、各人の具体的な目的意識がない者が多い印象。
- ・ 将来の志を高く維持できるような、教育があればなお素晴らしいと思っています。
- ・ 最近の学生は考え方も変わってきているように感じます。時代に沿った教育が必要なのかと。
- ・ 新しい課題を自分で見出し最後まで解決するという新規領域を開拓するという気概が乏しい点。
- ・ 働き方改革、社会的コンプライアンス、常識の中、問題点を具体的に示すことが大事になると思います
- ・ 専攻医が入職されましたが、メンタル面に不安がありましたが、初期研修中での個人的な問題などを共有したいです。
- ・ 研修医に関しては失う物は何もないので、もっと能動的にがつつ質問や不安を自身が患者を見る体裁で聞いてきてもらいたい。
- ・ 繰り返し指導してもインシデントレポート提出数が少ない研修医がおり、学生時代から医療安全の意識を植え付けてもらえると有難い。
- ・ 貴校に限った話ではないが、一般の社会人と比較して社会に出るのが遅い割に一般常識が伴っていないことがあるため、医学以外の一般常識を学ぶ時間があってもいいかと考える。
- ・ 学外実習での目標、評価方法がよくわからない。
- ・ 特になし(6)